

- BMWジャパン、BMW「118i」「M135i xDrive」のボディメインコントローラー(BDC)に不具合があるとしてリコール  
19年7月6日～同年11月26日に生産した2715台  
BDCのプログラムが不適切な為、デイルイトを点灯させている時にテールライトを単独で点灯させてもメーターパネル上に灯火器が作動していることを示す表示灯が点灯しない。その為、保安基準第37条(尾灯の基準)に適合しない恐れがある。
- BMWジャパン、「3シリーズ」18車種のエアバッグ装置(インフレーター)に不具合があるとしてリコール 99年9月1日～06年8月18日に生産した3万5022台  
助手席用エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、長時間にわたり、著しく高温多湿な環境下にさらされると、インフレーターに水分が侵入する可能性があり、結果として、エアバッグ展開時にインフレーター内圧が異常上昇し、インフレーター容器が破損して飛び散り、乗員が負傷する恐れがある。
- トヨタ自動車、「ノア」等計30車種の燃料ポンプに不具合があるとしてリコール 13年9月2日～19年11月30日に生産した11万2934台  
低圧燃料ポンプのインペラ(樹脂製羽根車)の成形条件が不適切な為、樹脂密度が低くなって、燃料により膨潤して変形することがある。その為、インペラがポンプケースと接触して燃料ポンプが作動不良となり、最悪の場合、走行中エンストに至る恐れがある。
- 日産自動車、「エクストレイル」のハイブリッドパワートレインコントロールモジュール(HPCM)に不具合があるとしてリコール  
17年3月28日～19年8月23日に生産したハイブリッド車2万6908台  
HPCMのモータ駆動力制御プログラムが不適切な為、エンジンコントロールユニット(ECU)との通信異常が発生。フェールセーフ状態に移行した際、動力が伝導されなくなり、一時的に走行不能に至る恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「CLS220d」等計50車種のシートベルトバックルに不具合があるとしてリコール  
18年7月20日～19年11月9日に輸入した1万4192台  
前席のシートベルトバックルにおいて、プレス治具の管理が不適切な為、シートベルト装着時に金具ががたつくものがある。その為、シートベルトの装着を正しく認識できず警告灯が点灯したまま、最悪の場合、衝突時に点火式シートベルトテンショナーが作動せずに、乗員に過度の傷害を与える恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「Gクラス G550」「メルセデスAMG G63」のドア配線に不具合があるとしてリコール  
18年8月6日～19年3月13日に輸入した1061台  
前席のドア配線の配線が不適切な為、強い引っ張りが生じることがある。その為、ドアの開閉を繰り返すと断線し、最悪の場合、警告表示が点灯してドアミラーウインカーが点灯しなくなる。またはSRS警告表示が点灯して側面衝突時に乗員保護装置が適切に作動せず乗員に過度の傷害を与える恐れがある。
- ダイハツ、「ミライース」等計8車種のステアリングに不具合があるとしてリコール 19年2月18日～同年7月26日に生産した4万6845台  
ステアリングホイールとステアリングコラムの取付け作業が不適切な為、走行中のハンドル操作時により、取付けナットが緩み、嵌合部にガタが発生するものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、ガタが大きくなり、最悪の場合、嵌合部が外れ、ハンドル操作ができなくなる恐れがある。
- スズキ、「ハスラー」・マツダOEM「フレアクロスオーバー」の車線逸脱警報装置が保安基準に適合しないとしてリコール  
19年12月26日～20年3月5日に生産した3093台  
車線逸脱抑制機能の制御プログラムが不適切な為、車線逸脱警報をOFFにすると車線逸脱抑制機能が作動している状態で車線を逸脱した場合に警報が作動せず、道路運送車両法の保安基準第11条(かじ取り装置の基準)に適合しない。
- マツダ、「CX-5」「アクセラ」「アテンザ」のエンジン制御コンピュータ(ECU)に不具合があるとして再リコール 12年2月14日～18年7月2日に生産した3836台  
エンジンの吸気シャッターバルブの制御プログラムが不適切な為、バルブ周辺に付着する煤などにより、バルブ開度が正しく制御されなくなり、エンジン警告灯が点灯した際、フェールセーフが十分に機能せず、バルブが全開しないことがある。その為、煤などの付着により、バルブが全閉のまま固着した場合、エンジンが停止する恐れがある。又、エンジンの排気圧センサの異常判定プログラムが不適切な為、センサ内部への水分の侵入により、センサの出力値がずれ、排出ガスが基準値を満足しなくなる場合に、異常判定しない。その為、そのままの状態で使用を続けると、侵入した水分により排気圧センサ内の電子回路が腐食し、断線することでエンジン警告灯が点灯し、フェールセーフ制御によりアイドリングストップが作動しなくなり、変速ショックが大きくなる恐れがある。
- ポルシェジャパン、「マカン」シリーズ4車種の燃料漏れの恐れがあるとしてリコール 14年9月29日～18年4月26日に輸入した8912台  
燃料ポンプサービスホールカバーと燃料ポンプフィルターフランジ間の公差設計が不適切な為、リヤシートに荷重がかかった際にカバーが燃料ポンプの吐出口に干渉することがある。その為、パイプに亀裂が生じ燃料が漏れる恐れがある。